

特集

ボランティアとキャリア形成

川路 康之

純真学専門部会委員

Volunteer and Formation of Career

Yasuyuki KAWAJI

Membership of the Junshin Education Committee Junshin Gakuen University

【要旨】 本稿では純真学科目群のうちのボランティアとキャリア形成科目について科目の目的、履修の方法、ボランティアの内容ならびに年間のスケジュールについて概説する。ボランティアを行うことは大学の専門分野の教育だけでは得られない多くのことを学ぶ機会となり、学園訓である「気品」「知性」「奉仕」の精神を体现できる人材育成の一助となっている。

キーワード： 自校教育、ボランティア、キャリア形成、社会奉仕

1. 緒言

ボランティアと言う意味は自由の意志をあらわすラテン語のボランタスが語源となっており、これには自発性と無償性、利他性、先駆性という4つの意味が含まれている¹⁾。日本においてボランティアという言葉が一般的になったきっかけは1995年の阪神淡路大震災や2011年の東日本大震災などであろう。この時は全国からたくさんの人々が現地に赴き、ボランティアを行った。しかしながら、海外に比べて日本の若者のボランティアの意識は低いと言うデータもあり²⁾日本においては、ボランティアが完全に文化として根付いたかと言うと必ずしもそうでないようである。実際にボランティアを始めたいと思っても、どのような準備が必要であるか、どのような団体に参加すればよいか、分からない等の問題が生じ、学生を含む一般の人々がボランティアを行う上で大きな障壁になっている。

このような状況において大学でボランティアを学ぶ理由は2つあると考える。一つめは学園訓である奉仕の精神を学ぶことができる点である。今回の新型コロナウイルス感染症において、医療の最前線でわが身を顧みずに立ち向かう医療従事者の奮闘する姿は世界中の人々に感動を与えた。この奉仕の精神は医療従事者には、欠くことができない資質だと多くの人々が改めて感じたことであろう。当大学は医療従事者の養成機関であるため、ボランティアを行うことは少なからずその資質を涵養し、のちのキャリアに活かせるものだと考える。

また、2つ目はボランティアを経験することは、大学の専門分野の教育だけでは得られない経験ができることである。中央教育審議会の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」による答申によると予測不可能な時代の到来を見据えた場合、専攻分野の専門性を有するだけでなく、思考力、判断力、俯瞰力、表現力の基盤の上に、幅広い教育を身につけ、高い公共性・論理性を保持しつつ、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく人材が必要であると述べている³⁾。ボランティアは自主的な意思を持って社会にとって問題となっていることを解決する、さらに活動自体の意味を理解し共感する経験を得ることできる。

純真学において「ボランティアとキャリア形成」という科目は単純にボランティア活動を経験するだけではなく、自らのキャリアを考える機会となるように目標を設定している。一方で多くの学生にとっ

履修までの手続き フローチャート

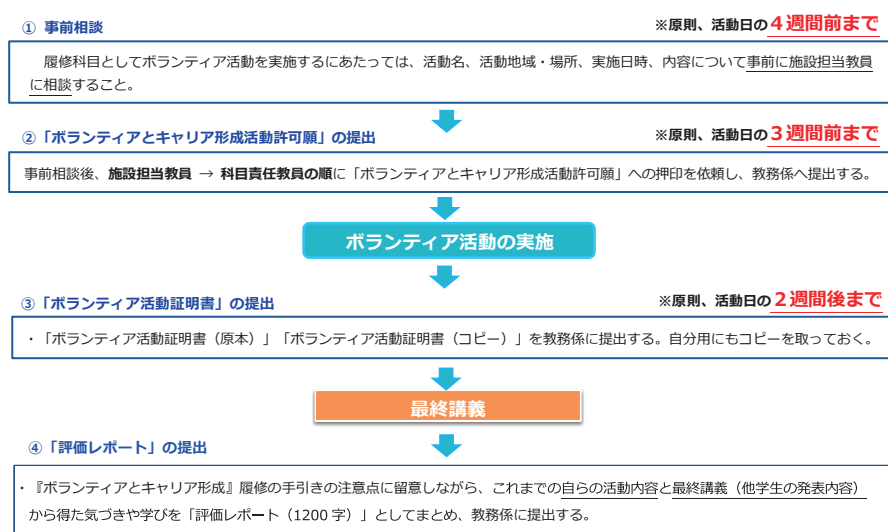


図2. 履修までの手続き

2) 学会・研修会運営に関するボランティア

福岡県看護協会、福岡県診療放射線技師会、福岡県臨床衛生検査技師会、福岡県臨床工学技士会等、具体的には受付・案内業務、クローク業務、スライド運営業務など。

3) 子供の園 純真でのボランティア

子どもとの遊びの時間を共に過ごす（粘土遊び、積み木遊びなど）、食事や排泄・着脱等の手伝い、散歩に出掛けるときのサポート、園内の掃除など。

4) 在宅施設におけるボランティア

在宅ホスピスを行っているクリニックでは健康教室等ボランティアと地域生活支援事業の「日中一時支援」におけるボランティア活動。健康教室では、テーマによって地域住民の方や診療所の患者様、ご家族が参加されるので、準備から後片付けまで運営に関するボランティア、日中一時支援では、障害を持った子供たちを対象としたケア（遊びも含む）を一緒に行うボランティア。デイサービスにおけるボランティアでは、高齢者を中心とした利用者の方へのケアやイベントの運営に関するボランティアなど。

5) 高齢者施設におけるボランティア

高齢社会の現状を知り、介護等の体験を高齢者施設で行っていくことを目的とする。具体的には、車椅子の介助、要介護者の話に傾聴する、食事の準備および摂食時の介助、入浴時の衣服の着脱の介助、また、施設での夏祭りや運動会等のイベントにおける準備・進行などのスタッフとしてのボランティア活動。

6) 子宮頸がん啓発事業におけるボランティア

学園祭での子宮頸がん検診と4月9日「子宮の日」における予防啓発活動、高校生・大学生に向けた啓発パンフレットの作成と配布、中学校・高校でのがん予防教育や性教育、がんサバイバー（経験者）とともに活動する啓発イベントへの参加など。

7) その他

自治体のイベント（マラソン等）スタッフ、福祉施設でのイベント手伝いなど、上記以外で大学から紹介するボランティア活動（ボランティアとキャリア形成に関する掲示板に随時掲示）。

3. ボランティアとキャリア形成の講義の内容

3.1 1～2年生に向けた説明会

ボランティアを行うにあたってまずは科目の科目ガイダンスを行う。例年、5月のゴールデンウィークの前あたりに開催している。純真学専門部会で作成した履修の手引きに沿って、履修目的、履修方法、単位認定までの流れ等を説明する。また、各ボランティア活動について担当教員が説明を行う。そして最後に学生の報告会を行う。報告会はスライドにて口頭で発表する。発表者は、すでに単位を取得した学生から選ばれる。また平成31年度より福岡市南区社会福祉協議会ボランティアセンターより講師をお呼びし、福岡市のボランティアの取り組みや窓口についての説明ならびにボランティア活動の心構えなどについてのより詳細な内容の講演を行って頂いている。

3.2 ポスター発表会

2年次の後期にはこれまで行ってきたボランティアをポスター形式で纏める。ポスターは、ボランティア活動毎に作成し、一定期間、学生ホールに展示する(図3)。教員、学生は、それぞれポスターから他学生がどのようなボランティアを行い、そこから得た学びを共有する。

3.3 最終講義

2年次の最終講義においては、最も有意義な学びを得た学生による活動報告会を開催する(図4)。発表者は、2年後期に展示するボランティア活動紹介ポスターの中から、学生投票によって選出される。また、優秀賞に選ばれた学生は表彰される(図5)。



図3. ポスター報告会の様子



図4. 最終講義での優秀学生の発表



図5. 優秀学生の表彰の様子

4. より深い気づきや学びを促す工夫

科目がスタートした当初は、ボランティアを行った後にレポートと報告書を提出する手順となっていた。しかしながら、報告書とレポート内容を確認すると、学生によって内容に大きな差があり、自らの

キャリアアップや奉仕における深い学びに繋がっていないものが散見された。その要因の一つに、他の学生がどんなボランティアを行っているかを知る機会がなかったことが考えられる。純真学専門部会では、これらの問題点を考慮し、前述しているように、より効果的な学びになるよう現在的方式に変更した。また、ボランティア後は報告書のみに変更し、最終講義を聞いた後にレポートを提出するという形式に改めた(図2)。さらに学生間の情報共有のために平成29年度より、ポスター報告会を取り入れることとした。このポスター報告会では大学内のポスターを一定期間、展示して教員や学生の投票にて最優秀者を選出する。そのポスターセッションで選ばれた上位の学生は最終講義にてほかの学生の前で報告を行う(図3)。このように他者のボランティアの関わり方や感じ方を聴き、共有し自らの体験を再考することにより深い学びを得ることが出来る様に工夫している。

5. 本科目に対する学生の授業評価

ボランティアとキャリア形成の科目における授業評価アンケートは巻末の資料集にまとめている。すべての項目において“非常にそう思う”、“そう思う”のポジティブな意見の割合が80%を超える結果となった。また自由記述欄では「ボランティアの授業をきっかけに社会貢献の手段を学べて、その面ではいいと思った」、「普段の授業では学べないことが学べたのでいい機会でした」、「人に感謝される喜びを知った」、「自身の見聞を広げることが出来、とても充実した授業だった」、「みんないろんなところにボランティアに行っていて驚いた」、「コミュニケーション能力が上がった」、「最後の優秀グループによる発表が良かった」など感想が述べられていた。より深い気づきや学びを促す工夫の項で前述したように、こちら側が意図していることが学生のアンケートからも窺えた。

6. 今後の課題

本学が医療系大学として平成23年より開学して以来、学園訓である「気品」「知性」「奉仕」の精神を体現できる医療の現場で有為な人材を輩出するよう努力してきた。特に平成28年度よりこれからの社会で求められる「人間力」について考え、学び、医療職者としての志を育むために『純真学』という体系を創設した。その科目群の中の「ボランティアとキャリア形成」は、学園訓の「奉仕」を実践的に学べる科目である。本科目ではボランティア活動を通して、各々が興味・関心を持ったボランティア活動を調べ、実際に参加し、その学びを共有し、地域貢献の意義と医療職者の使命を考えることが大きな目的である。また、履修後には、さらに次のようなことが期待できる。内閣府による我が国と諸外国の若者の意識に関する調査ではボランティアを行っている学生は、地域や社会の問題について関心を持つようになり、さらには海外留学においても興味を持つといった傾向があるとの分析があった²⁾。これは普段、社会と接点が少ない学生にとっては、視野を広げる大きなきっかけを与えてくれる科目となりうる。実際に学生の授業評価アンケートではそのような記述が多く見られた。

今後の検討課題として一部の学生において、積極性や自主性が見られず、単位を取得するために仕方なくやっているという姿勢が見られた。これらについては、純真学入門やガイダンス等でなぜ「奉仕」の精神が必要であるのか、などさらに考えさせる工夫が必要であると考ええる。また、最終的にはキャリア形成ならびに4年次の就職活動に繋がりたいが、現時点ではこの科目のみで完結している印象が強い。今後、新たなカリキュラム作成とともに他の科目ならびに進路対策委員会との連携をうまく取り、よりこれらの問題について改善し、実りある科目にしていきたいと考える。

【参考文献】

1. ボランティアについて 厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課。
2. 我が国と諸外国の若者の意識に関する調査(平成30年度) 令和元年6月 内閣府
3. 2040年の高等教育のグランドデザイン (平成30年度) 中央教育審議